

助産実践能力が向上するシミュレーション教育プログラムの開発とその効果-分娩期に焦点を当てた継続教育プログラム-

著者	山内 まゆみ
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	札幌市立大学
学位授与年度	令和2年度
学位授与番号	20105甲第14号
URL	http://doi.org/10.15025/00000191

2020年9月4日

博士論文審査報告書

札幌市立大学大学院
看護学研究科長 様

看護学研究科博士論文審査会

審査員（主査）	定廣和香子
審査員（副査）	喜多歳子
審査員（副査）	中村恵子
審査員（副査）	北海道大学名誉教授 良村貞子（故人）

学位申請者氏名	山内まゆみ	学籍番号	2075301
申請学位	博士	専門分野	看護学
論文題目	助産実践能力が向上するシミュレーション教育プログラムの開発とその効果-分娩期に焦点を当てた継続教育プログラム- Development of Simulation Education Program Building Midwives' Practical Capacities and Its Effectiveness :Continuing Education Program Focusing on Delivery Stage		
審査日程	令和2年7月21日 本審査 令和2年8月20日 公開発表会		
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格		

審査結果の要旨

本論文の研究目的は、助産師を対象としたシミュレーション教育による継続教育プログラムの開発であり、経験年数2から10年の助産師の分娩期の異常出血に対応できる助産実践能力の向上をめざす“YAMAUCHI-Program for Midwife: YPFM”を開発した。また、このYPFMの受講者は、受講後に助産実践能力が向上しており、その効果も統計学的に確認できた。

予備審査（令和元年12月10日）を経て、博士論文審査（本審査：令和2年7月21日）を実施した。審査所見は次のとおりである。

本研究は、「分娩期の異常出血」という助産師が、経験や自己学習を通して対応能力を高めることが困難な内容に焦点を当てており、特に診療所等に勤務し、組織的な継続教育プログラムを受講する機会が確保されにくい助産師にとって必要かつ有効な教育プログラムである。

また、高額なシミュレーターに頼らない独創的な教育プログラムであり、参加者が役割を交代しながら状況を構成することにより、様々な立場から学習を深められるようになっている点に新規性や意義がある。経費がかからず、参加者数により状況設定を調整しやすいなどの特徴からは、新規性、独創性のみならず、このプログラムの普及可能性が期待できる。

組織のアウトカムからの評価をプログラムの課題としているが、研究期間等を踏まえると今回の研究内で遂行することは現実的ではないため、今後の課題として研究を継続していただきたい。また、今回、考案したプログラムは、様々な時期、状況を設定し応用することが可能であり、すでに正常経過をたどる産婦を対象にしたシナリオも作成されているため、発展性にも期待したい。

研究は計画に沿って行われ、想定した仮説に対して分析している。関連仮説が支持されなかった場合も真摯に受け止め、内省的に考察がなされていること、COVID-19のパンデミックという保健医療に従事するものとして研究継続がきわめて困難な時期に、論文を完遂させた点も高く評価したい。

以上、本論文は、博士論文審査視点及び審査基準を満たす内容であり、審査過程を通して、学位申請者は、論文内容を十分に把握していることを確認した。

本審査会は、本論文を博士（看護学）の学位にふさわしい内容と判断し、博士論文として「合格」と判定した。

なお、北海道大学名誉教授良村貞子審査員は2020年5月に急逝された。論文の意義などの貴重な意見をいただき、本報告書の作成にいたったことを申し添える。謹んでご冥福をお祈りしたい。